

■ 第26回非開削技術協会理事会

第26回非開削技術協会理事会を2月26日デイナイスホテル東京にて開催しました。日本非開削技術協会事務局より、当日の出席理事13名、監事1名を確認のうえ、理事会成立を報告。森田会長を議長に選任し理事会が進行されました。理事会では、2019年度の事業報告ならびに収支状況の報告を実施。次年度2020年度計画を提案し、全て可決されました。次回理事会は、2020年6月24日(水)ルポール麹町にて第12回通常総会と併せて開催予定です。



■ 2019年度 非開削技術講習会

2019年度非開削技術講習会については、新型ウイルスに関する政府要請を受け、大規模開催となる東京会場の開催を中止し、大阪会場のみ(公社)日本下水道管路管理業協会ならびに(一社)日本管路更生工法品質確保協会の共催で実施しました。

大阪会場では、(一社)日本管路更生工法品質確保協会の佐藤敏明理事より管路更生工法の概要、日本非開削技術協会地下探査技術委員会の網崎勝委員と鈴木敬一委員より地下探査技術の地中レーダ法や電磁誘導法について説明。また日本非開削技術協会HDD(誘導式水平ドリル)工法委員会の伊藤靖委員長と大阪ガスエンジニアリングの山口隆司マネージャーがHDD工法の技術講習を行いました。

その後、参加者は実習会場に移動し、地下探査委員会網崎委員と鈴木委員の説明を聞きながらレーダ探査機の操作を体験。探査機の出力波形を視認して埋設物

の情報を把握する方法を説明。さらにHDD(誘導式水平ドリル)工法委員会の伊藤委員長と大阪ガス・ネットワークカンパニー供給部供給技術チームの足立進氏がHDD実機デモ運転を披露し、特徴などを解説しました。

■ 委員会活動

(1) 編集委員会

第7回編集委員会を1月16日(木)に協会隣会議室で開催しました。委員会では110号の完成状況の確認をならびに111号発行(本紙)の準備状況について進捗を確認しました。

ここでは機関誌のメインタイトルを「非開削技術」に変更することが承認され第111号(本誌)より採用することが決定しました。

(2) ソーシャルコスト検討委員会

1月24日(金)ソーシャルコスト検討委員会を開催しました。今後の活動計画で、2020年度に「地下管渠工事の社会的費用の算出の手引き(案)」の改訂を行うことが決定しました。

(3) 地下探査委員会

11月29日(金)に地下探査委員会を協会隣会議室で開催しました。前回、立ち上げた“手引き改訂作業会”と“資格、技能認定検討作業会”の進捗状況を各作業チームの主査から報告。委員会に諮りました。

(4) 工法ナビゲーションシステム運営委員会

11月11日(月)に工法ナビゲーションシステム運営委員会を開催しました。

管路更生工法メニューについて、リニューアル作業の進捗状況を確認。2020年3月末の公開予定を確認しました。

(5) HDD(誘導式水平ドリル)工法委員会

1月23日(木)にHDD(誘導式水平ドリル)工法委員会を協会隣会議室で開催しました。

ここでは委員会の今後の活動計画について審議。各工法協会の協力のもとに進めることとし、今後、関係5協会の協力で改訂作業を準備することが決定しました。